

# 中田かわら版

～中田地区の地域活動をお知らせします～

# 3月号

発行：中田地区経営委員会  
制作：中田かわら版制作編集委員会

協力：中田連合自治会 泉区役所  
横浜市踊場地域ケアプラザ

## ■この人に会いたい<64>

## 障がい者支援活動37年

横浜市出身。2003年から施設長に就任。趣味は料理、読書。



### 共働舎施設長 萩原 達也さん (56歳)

共働舎は平成2年(1990年)創立。昨年が30周年だったはず。「特別記念事業でも」「いや、何もやりませんでしたね、うふふふ」。新型コロナ禍でそれどころではなかったのかも知れない。共働舎といえば歴史、規模、知名度において中田では最も有名かも。平成22年12月に「かわら版」で紹介したが、この時もちょうど20周年の時だった。

現在ここで働く利用者さんは76人、非常勤を含めスタッフ約30人が働く。仕事の内容も農園芸、陶器、パン作りや製品の販売など。約100坪の三角の温室には1年中、色とりどり草花が咲きそろい目を楽しめさせてくれる。入口に入って右側にあるのが「花郷」(はなむら)。ここで作られたパン、クッキー、陶芸品などの販売のほか、店内で喫茶も楽しめる。立場にある「はたらき本舗」(製菓)も同じ系列だ。

多忙な施設長ともなれば、さぞ体躯ががっちり、色黒の人を想像するが、いたって物静かな実務的な人柄である。精力的なエネルギーは一体どこからくるのか不思議なくらいである。でも、福祉活動という大きな目的の中で働くリーダーとは信頼と指導力を持った萩原さんのような人なのかもしれない。話を聞くほどにそんな気がしてくる。

萩原さんは大学(明治学院大学社会福祉学科)在学中に「んとすの家」(「開く会」の全身)の代表を務める鈴木正明さんと出会い、「んとすの家」で福祉活動に参加、ボランティアをやっていた。この会は昭和56年(1981年)から知的障がいのある小・中学生のための支援事業や養護の必要な子どもたちのためのファミリーグループホーム、地域の子どもの対象にした学童保育や保育活動を中田で行っていた。動物の飼育、農園芸、陶芸の活動を共にして、卒業と同時に、そのまま就職。平成2年には鈴木さんらと社会福祉法人「開く会」の立ち上げに参加、このとき設立した授産施設「共働舎」に入職する。

入職後は陶芸やパンなどの現場で経験を積み、平成15年、「開く会」の理事、「共働舎」の施設長に就任、現在に至る。同法人の事業所一覧には上記のほか「グループホームウィズ」はじめ地域ケアプラザ、コミュニティハウスなど7施設。平成24年に市営地下鉄下飯田駅前に完成した就労支援施設「ファール ニエンテ」を立ち上げ農園芸、イタリアンレストラン、ベーカリーを事業として昨年11月6周年を迎えた。



萩原さんにはもう一つ大きな事業を抱えている。民話「猫の踊場」をテーマに2019年4月から活動している中田の活性化の問題。「和黄猫舞山委員会」(代表・福德齋本慶)の事務局長として各種イベントを行ってきたが、昨年はコロナでほとんどの計画が中止になり、今年に持ち越しになった。踊場にある猫の寒念仏供養塔の場所に「おたまと猫のたま」のモニュメントは現在、完成を目指し進行中だ。萩原さんは「この素晴らしい計画を多くの人から理解と協力がなければ成功しない。出来たモニュメントを末永く、どう活用していくかです」。一日も早いコロナ禍の終息を願い、中田の発展のためにも、ぜひ成功させたい。心優しい踊場の猫のたまもきっと地域住民の幸せを応援してくれるはずだ。

(宮田貞夫)

～一人ひとりがCO<sub>2</sub>を減らす努力をし、美しい地球を子どもたちに残そう!～